

9月4日のウクライナ情報

安齋育郎

●ヘルソンの攻防、始まる(2022年8月31日)

モスクワ、8月31日 - RIA Novosti。ロシア国防省は水曜日、ニコラエフ・クリヴォイ・ログやその他の方向で攻撃を再開しようとする試みの過程で、ウクライナ軍は2日間で1700人の壊滅的敗北を喫した。ウクライナ戦争の帰趨を決める「ヘルソンの攻防」が始まった(NW 日本版)



●米国はプーチン大統領の重要な警告を無視した = 米国の経済学者(2022年9月1日)

米国な有名な経済学者でコロンビア大学教授のジェフリー・サックス氏は、報道番組 DemocracyNow! で、米国は、NATO のさらなる拡大は容認できないというロシア指導部の警告に不当に耳を傾けなかったほか、合意しようとするロシアの試みを不必要にはねつけたと述べた。

サックス氏は「プーチン大統領は『NATO を黒海、ウクライナ、そしてグルジアに引っ張ってくるな』と何年も繰り返してきた。モスクワは警告した。『我われを取り囲むな、我われを脅すな、合意しようじゃないか』と。しかしワシントンはこの呼びかけをはねつけた」と述べた。

サックス氏はまた、このような米国の行動は目新しいものではなく、ソ連崩壊後に米国の指導部が一極世界の考えに夢中になった30年以上前に始まったと述べ、そのような戦略の結果は惨憺たるもので、米国はその外交政策を完全に軍事化したと語った。

サックス氏は、米国が外交合意していればウクライナ紛争の悪化は回避できたはずだと締めくくった。

●前線兵士とキーウのどんちゃん騒ぎ(2022年8月9月1日)

圧倒的な負け戦の中でも前線(ウクライナ東部・ドンバス)で命をかけて戦っているウクライナ兵が、キーウ(キエフで開催されているパーティー(ウクライナ中部～西部は至って平和なので)を観た時の反応

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1565170354305507328?t=IFZ2gQJHdZefPFM6oe7fMQ&s=09>

●ラブロフ露外相、啓発マラソン会議『知識』参加者とのミーティングでスピーチ(202

2年9月1日)

外交とは、耳を傾けること、耳にすること、そして説得することです。きわめて残念なことに、近年、ことに冷戦が終結した後、誰もが共栄の時代が訪れると考えました。政治学者の中には、『歴史の終焉』と宣言する者もいました。今後は永遠に、『リベラルな価値観が』この世を支配するというのです。

冷戦での勝利を宣言し、それを基盤に実務においても自らの優位を証明し主張しようとする姿勢は、外交とは無縁のものです。特に西側のやり方、すなわち、威しや脅迫、不法な制裁、『カラー革命』の組織、武力やカラー革命の組織を通じて旧ソ連圏等の地域で内政干渉を行う西側のやり方をふまえれば、こうした姿勢はまぎれもない専横としか言えません。

！このようなロジックには、ロシアは同意できないのです。



●アメリカでロシアへの移住呼びかけキャンペーン始まる(2022年8月30日)

アメリカでロシアへの移住を呼びかける広告キャンペーンが開始されました。スローガンには次のように書かれています。ロシアは温かいシャワーを浴びるのに最適な場所です。アメリカでは 50 ドルでどこまでいけますか？「あなたは物価上昇を支持しますか？プーチンは支持しません。」



●軍事支援か、即時停戦への道か(2022年8月26日)

「ロシアとの戦争が長引けば長引くほど、ウクライナの被害は回復不能になる」。アメリカの著名人20人によるロシアに勝てる重装備のウクライナへの供与を求める書簡に対して、ダグラス・マクレガー退役大佐は「戦争でも平和でも人的資源が全て」だが、ウクライナはすでに払底していると述べ、ウクライナの「オーストリア型中立国化」を条件に、即時停戦を説く。

ダグラス・マクレガー米大佐は、「ロシアは、米国がすべての背後にいると正しく信じている。実際、西側でペースを握っているのはワシントンである。ワシントンはゼレンスキーの背後にいる」と言っている。そして、最新のインタビューで、「ウクライナは、ワシントンが補助金を出している犯罪で泳いでいる失敗国家だ」と述べた。

ダグラス・マクレガー大佐は、ワシントンがウクへの「援助」として割り当てたお金は米国に戻されていると述べた。

何十億ドルというお金は、いったいどこにあるのでしょうか？

そのほとんどがウクに届いていないで巨額がペンタゴンに預けられているという。

が、作戦に派遣されたロシア軍のごく一部は、ウクライナの主要な抵抗基地を全滅させるのに効果的でした。紛争の現在の段階では、軍事情勢を逆転させる可能性はありません。キエフは敗北し、降伏の必然的な決定を延期するだけです。それは、西側の武器を受け取り続け、一種の「生存」を保証し、(7)

●アメリカ 東欧の征服へ 色の革命の舞台裏 その1(2012年5月14日)

<https://www.youtube.com/watch?v=3XwMiNOXMA>

※安齋注:これは古い映像だが、とても大事な映像です。アメリカがどのようにして東欧を支配下に置こうとしてか、その戦略の基本がわかります。ウクライナもその延長線上にあります。

●ザポリージャ原発での IAEA の活動(2022年9月1日)

<https://twitter.com/Jano661/status/1565342231896412161?s=20&t=yIbTvJEwjGnePcb7CazkXw>



●NATO はリビア戦争映像を偽装した(2011年8月11日)

<https://www.youtube.com/watch?v=EtPSRmw8wA>

※安齋注:戦争ではこうした偽装工作による世論作りが前々から行われていたこと示しています。

●イラン外相、「ある欧州首脳からのウクライナ関連メッセージをロシアに伝達」 (2022年9月1日)

アミールアブドラーヒヤーン・イラン外相が、「ある欧州首脳からのウクライナ関連メッセージを、ロシアに伝達した」とするとともに、「ウクライナでの戦争停止および、平和と安定の確立への寄与に向けた構想が提起されている」と語りました。

ファールス通信によりますと、アミールアブドラーヒヤーン外相は31日水曜、訪問先のロシア・モスクワにて同国のラブロフ外相との会談後、共同記者会見し、「イランは、ウクライナに関する自らの立場を、最高レベルにて明白に表明している」と述べています。

また、「ウクライナ問題においては、捕虜や人道上の問題の一部、さらには同国南部ザポリージャ原発の問題が注目されている」とし、「現状打開のためには、現在あるすべての可能性を駆使する必要がある」としました。

さらに、「イランは、平和的核エネルギーの問題における世界の主要勢力の1つとして、このザポリージャ原発とその周辺を安全を確立するためのあらゆる支援と協力の準備ができている」と語っています。

加えて、オーストリア・ウィーンでの制裁解除交渉にも触れ、イランがこの協議での恒久的な合意成立に向け本腰を入れていることに触れ、「アメリカが現実的に行動し、現在の草案をさらに強固なものにすれば、合意成立への道のりは遠くない」と述べました。

一方、ラブロフ外相もこの記者会見で、ロシアとして核合意復活を目指す最終文書の内容に完全に満足している、と語っています。

両外相はさらに、各分野での両国の協力拡大を協調しました。

